

教員おすすめ図書コーナー推薦書

教 員 氏 名	
山田 真一郎 先生	おすすめメッセージ
<p>① 図書名：『「憲法改正」の真実』</p> <hr/> <p>著 者：樋口陽一、小林節</p> <p>出版社：集英社（集英社新書） ISBN：9784087208269</p>	<p>政策形成に当たる者たちが、法を、ましてや憲法をも単なる政策実現のツールに過ぎないとみなすと、たちまち国家・社会の行く末が危ぶまれます。政策系学部の学生にこそ、法学が積み上げてきた原理をしっかりと考えながら学んでもらえればと切に願います。</p> <p>安全保障領域を入り口としてこの問題意識を持つのも面白いのではないかと、ということでこの本を紹介します。</p> <p>憲法改正派の重鎮とされてきた保守派の学者までもが、なぜ近時の安法制の動きに異を唱えるのでしょうか。具体的に、例えば、なぜ「閣議決定に基づく集団的自衛権行使容認」を許せないのでしょうか。</p> <p>日本国においても歴史を持つ立憲主義の根幹を揺るがしかねない事態であると多くの公法学者が危惧をしているからですが、世間ではなぜか右か左かの論争に矮小化されがちです。</p> <p>ぜひアカデミックな観点から事の本質を捉える取組みをしてみてください。</p>
<p>② 図書名：『沈黙』</p> <hr/> <p>著 者：遠藤周作</p> <p>出版社：新潮社（新潮文庫） ISBN：9784101123158</p>	<p>最近もリーアム・ニーソンや浅野忠信などが出演して映画化（2016年）されましたが、原作をじっくりと読むことを薦めます。</p> <p>信仰に生きる者達を悩ませるのが「神の沈黙」とされますが、それを絶望の中から問い続ける人間に仮託して1つの解が描かれています。</p> <p>多くのクリスチャンから今なお嫌われるクリスチャン作家が用意した冷徹で救いのないエンディングの中でなぜか不思議な感動と説得力があります。</p> <p>日本史の一側面を学ぶきっかけとする上でも、また世界の中ではかなりの割合の人々が宗教を倫理的土台としているのですが、それら宗教の世界観を学ぶきっかけとする上でも良いかと思えます。まあ決して楽しい本ではありませんので、長い休みの時にも。</p>